

## 令和3年度 第2回瑞浪市文化財審議会 会議録

■日 時：6月17日（木）13時30分から15時00分まで

■場 所：瑞浪市化石博物館 レクチャールーム

■出席者：小栗幸江、小栗 茂、加知久宗、可知正己、小木曾健夫、三戸憲和、  
柴田明芳、山田和洋

欠席者：青木本吉

事務局：和田課長、砂田係長、安藤主査

### ■あいさつ

和田課長あいさつ（内容は省略）。過半数委員の出席による会議成立の宣言。

### ■審議事項

#### （1）文化財の指定（答申事由）について

会 長：文化財指定の答申事由について事務局からの説明を求める。

事務局：前回の審議会において文化財指定の議決がなされた「大湫神明白山神社例祭」について、答申事由書の案を添付しました。まずは指定名称に、国の指定名称に準じて「山車行事」の文言を付した点についてご意見をいただきたい。

会 長：ただ今事務局から説明があった、大湫神明白山神社例祭の指定名称について、ご意見等あれば発言をお願いしたい。

委 員：国が指定名称に山車行事などの文言を付す理由は何か。

事務局：国指定文化財の祭礼行事が所在する、他の市町村の担当部局に確認したところ、祭礼の特徴を分かりやすく示すことが目的ではないかとの回答がありました。

委 員：確かに特徴が分かりやすい名称となるが、祭礼行事全体ではなく山車行事のみが文化財に指定されたような印象を与える恐れがある。

委 員：確かに「の」という文字があることで、山車行事という祭礼の一部のみに価値があり、他の要素は価値がないような印象を受ける。

委 員：それでは「の」を「及び」に変えてはどうか。

委 員：「及び」の文言では、異なる二つのものを結び付けたような印象を与えないか。

委 員：山車行事は、あくまでも例祭の一部であり、同質ものである。よって「の」ではなく「・」（中点）にしてはどうか。

委 員：中点だと並列の印象が伝わりやすい。

委 員：難しい問題であるが、山車行事などの文言を省いて「大湫神明白山神社例祭」としてはどうか。

委員：確かに誤解は生じないが、山車を用いるという例祭の特徴は名称に入れるべきと考える。

委員：「山車行事」の文言がある場合、ない場合とも一長一短と考えるが、やはり「・」（中点）がもっとも誤解がなく、かつ特徴を示す名称とは言えないか。

会長：様々な意見が出されたが、「・」（中点）が誤解なく特徴を示すものとする。したがってここは「・」（中点）を用いた方がいいか。

【異議なしの声】

会長：それでは、ここは「・」（中点）を用いることとする。また、山車の読みや使用する文字については案のとおりで良いか。

委員：例祭の調査報告書には、かつては「やま」と呼ばれていたとの記述もあるが現状はどうか。

委員：現在も「やま」と呼ぶ人もいるが、多くの町民は「だし」と呼んでいる。

委員：確かに現在は大湫でも「だし」という呼称が一般的であると聞く。

会長：使用する文字についてはどうか。

委員：現在、山車を収納する倉庫には「山車」の文字が使用されており、町民のそのような認識を有している。従って「山車」の文字が適切と考える。

会長：それでは、文字には「山車」を用い、読みは「だし」とすることで良いか。

【異議なしの声】

会長：それでは指定名称は「大湫神明白山神社例祭・山車行事」とし、読みは「おおくてしんめいはくさんじんじゃれいさい・だしぎょうじ」とする。なお、現在の答申書案には読みに「れいさい」の文言が抜けているので修正願いたい。

事務局：承知しました。

会長：引き続いて、指定事由についてご意見等あれば発言をお願いしたい。

委員：文書の中に「山車」と「車山」の表記が混在しているため「山車」に統一すること。

事務局：承知しました。

委員：「音楽」の表記については「音曲」（おんぎょく）とする方が好ましいのではないか。

【同意する旨の意見が複数出される】

会長：それでは「山車」に表記を統一する点、また「音楽」の表記を「音曲」に修正する点の他は、原案通りということで良いか。

【異議なしの声】

会 長：それでは、ただ今の2点の修正以外は原案のとおりとする。答申書は事務局にて修正し、提出をお願いします。

事務局：承知しました。

会 長：それでは本日の審議はこれにて終了する。

■その他

大湫神明神社の大杉の保存事業について、6月5日にプロポーザル審査が行われて施工業者が決定した旨を口頭にて説明した。